

日本学習社会学会

第 19 回大会プログラム



2022年9月3日(土)・9月4日(日)

東京学芸大学第19回大会実行委員会

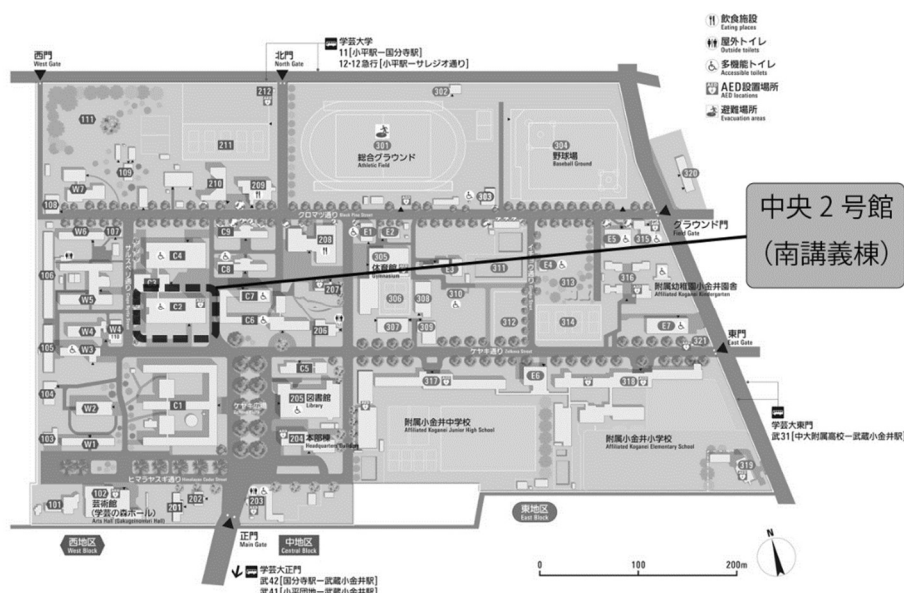
日本学習社会学会第 19 回大会の開催にあたって

会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

日本学習社会学会第 19 回大会を東京学芸大学（東京都小金井市）で、令和 4 年 9 月 3 日（土）～9 月 4 日（日）に開催させていただきます。

今年度は、理事会にて「久しぶりに是非対面での開催を」というご要望をいただきましたので、十分な感染対策を行ったうえで、鋭意、準備に取り組んでいるところです。

東京学芸大学は、学校教育系と教育支援系を擁する教育の単科大学です。キャンパスは、JR 中央線の武蔵小金井北口からバスで約 7 分のところにあります。この機会に、「学芸の森」と称される自然豊かな本キャンパスへ、是非お運びください。



キャンパスマップは
こちらもご参照下さい



各地で多様な研究や実践をされている会員が集う、年に一度の大会が、お運びくださる皆様にとって、多くの成果が得られる機会となりますよう、大会実行委員一同、微力ながら努めます。皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

日本学習社会学会第 19 回大会 大会実行委員会

大会実行委員長 柴田 彩千子
事務局長 樋口 悠太
委員 小山田 佳代
後藤 範子
東山(富田) 絵実
根本 裕美

日本学習社会学会第19回大会 開催要項

1 開催要項

【期 日】 2022年9月3日(土)・4日(日)

【会 場】 東京学芸大学 中央2号館 南講義棟

【参加費】 大会参加費 一般・臨時会員 2,000円 / 院生・学生会員 1,000円

※但し、4日(日)午後の開催校企画シンポジウムのための学会員以外の参加は無料。

【大会プログラム】

月 日	10:00	12:00	13:30	16:30	18:30	19:30
9月3日(土) 12:00～受付	/	受付 中央2号館 南講義棟 1階ロビー	自由研究発表 S105 S106 S107 S202 S204	課題研究1 16:30～18:30 S103	総会 S203	
		理事会 S102				
9月4日(日) 9:00～受付	課題研究2 10:00～12:00 S103	昼食	開催校企画 シンポジウム 13:00～16:00 S410	/		

※大会本部・役員控室・理事会・公開シンポジウム打ち合わせ(3日12:00～)：打ち合わせ会場
会員控室：S201

(1) 開催校企画シンポジウム

「コミュニティ・スクールから子どもの未来を拓く～地域と学校の協働のこれから～」

(2) 課題研究

テーマ1 研究推進委員会企画：

「子どもの多様な学びを支える新たなアプローチ ―個別最適な学びと協働的な学びの可能性―」

テーマ2 国際交流委員会企画：

「若者から始まる民主主義 ―政治参加を促進する仕組みの比較研究―」

- 2 昼食 大会期間中、学内の食堂は営業していません。参加申し込み時に4日の昼食の弁当(1000円)を希望された方は、受付で代金と引き換えに「弁当引換券」を受け取ってください。正午過ぎから受付で弁当と引き換えます。

3 会場への交通

- ・大会当日は必ず正門からご入構ください。休日のため他の門は施錠されております。
- ・詳しくは、交通アクセス [〈https://www.u-gakugei.ac.jp/access/〉](https://www.u-gakugei.ac.jp/access/) をご参照ください。

4 大会に関する問い合わせ先

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学教育学部

日本学習社会学会第19回大会実行委員会事務局 柴田 彩千子(しばた さちこ)

TEL: 042-403-9499(研究室) E-MAIL: sshiba23@u-gakugei.ac.jp

自由研究発表 I

第 1 会場 S105

9 月 3 日(土) 13 : 30 ~ 16 : 05

司会 佐藤 晴雄 (日本大学)

【1】 13 : 30 ~ 13 : 55

小学校教員の専門性についての一考察

—教科担任制導入校の調査を通して—

栗原 幸正 (高崎健康福祉大学人間発達学部)

【2】 13 : 55 ~ 14 : 20

保育者養成における やり抜く力(GRIT) について

二階堂 あき子 (フェリシアこども短期大学)

【3】 14 : 20 ~ 14 : 45

戦後初期ガイダンス概念の変容過程に見る日本化の諸相

平井 貴美代 (山梨大学)

【4】 14 : 45 ~ 15 : 10

ICT を活用した高等学校国語科の授業実践報告

星野 寛 (東京都立瑞穂農芸高等学校)

【5】 15 : 10 ~ 15 : 35

思考力、創造力を伸ばす大学の授業改善

—班活動を中心としたディベートの展開から—

金山 光一 (早稲田大学)

15 : 35 ~ 16 : 05 共同討議

自由研究発表Ⅱ

第2会場 S106

9月3日(土) 13:30~16:30

司会 鈴木 廣志 (栃木市地域振興部)

【1】13:30~13:55

「戦後最長」の地方学力テスト

—福井県SASAの歴史—

北野 秋男 (日本大学文理学部)

【2】13:55~14:20

外国につながる子どもの高校進学の問題

—岐阜県可児市国際交流協会の高校進学支援教室「さつき教室」の視察から—

田中 真奈美 (東京未来大学)

【3】14:20~14:45

人材バンク事業の変遷と今日的課題

桜庭 望 (公益財団法人東京学校支援機構)

【4】14:45~15:10

学校図書館発！開かれた学びの実現へ

—教務の窓からつなぐチームの輪—

磯部 真代 (静岡県浜松市立与進北小学校)

【5】15:10~15:35

コミュニティ・スクールの運営に参画する教職員の職務遂行上の課題

—新型コロナウイルス感染症拡大時の事務局業務に着目して—

深見 智一 (釧路町立遠矢小学校)

【6】15:35~16:00

「地域連携教員」の実態と課題

—インタビュー調査を踏まえた検討—

市野 亮太 (日本大学大学院 博士後期課程)

16:00~16:30 共同討議

自由研究発表Ⅲ

第3会場 S107

9月3日(土) 13:30~16:05

司会 富士原 雅弘 (日本大学)

【1】13:30~13:55

科学技術・学術政策に関する国民の意識について

金子 弘 (日本学習社会学会会員)

【2】13:55~14:20

東京でアイヌについて学ぶこと

上野 昌之 (東洋大学)

【3】14:20~14:45

国鉄に技能連携施設があった時代

長谷川 晴通 (元 国鉄職員)

【4】14:45~15:10

和食構造論に基づいた若者向け学習事業の検討

手塚 貴子 (金沢星稜大学女子短期大学部/日本大学文理学部
人文科学研究所客員研究員)

【5】15:10~15:35

シビックプライドを醸成する多文化共生プログラムの開発

—地域コミュニティーにおける活動事例より—

星野 洋美 (常葉大学)

15:35~16:05 共同討議

自由研究発表Ⅳ

第4会場 S202

9月3日(土) 13:30~16:30

司会 田中 達也 (釧路公立大学)

【1】13:30~13:55

北海道における言語障害幼児支援の歴史的展開過程

—「釧路市幼児言語治療指導所」の事例分析を中心に—

田中 謙 (日本大学)

【2】13:55~14:20

ひきこもり支援と日常生活上の自立観

桑原 啓 (京都大学大学院・日本学術振興会特別研究員)

【3】14:20~14:45

持続可能な中国農村社会を創出するためのNGOの取り組みに関する一考察

劉 琦 (早稲田大学大学院 教育学研究科)

【4】14:45~15:10

インド指定ドライブ・モンパの教育とコミュニティの参画に関する考察

—アルナーチャル・プラデーシュ州タワソンの事例を踏まえて—

新関 ヴァッド 郁代 (早稲田大学大学院)

【5】15:10~15:35

中国における若年層の視点から考える高齢者生涯学習支援

—世代間交流の推進を目指して—

趙 天歌 (早稲田大学教育総合科学学術院助手 博士後期課程)

【6】15:35~16:00

島根県奥出雲発 子ども落語を通じた地方創生の試み4

—高尾小にこここ寄席10年の歩み—

川上 宜久 (島根県奥出雲町立高尾小学校)

16:00~16:30 共同討議

自由研究発表V

第5会場 S204

9月3日(土) 13:30~16:30

司会 田中 雅文 (日本女子大学)

【1】13:30~13:55

防災活動における市民の防災意識の変容に関する研究

— 三鷹市の市民リーダーの意識変容に着目して—

後藤 範子 (東京学芸大学)

【2】13:55~14:20

ライフコース分析からみる職業人にとっての企業内外における学び

—生涯学習社会に向けた企業内外をつなぐ結節点の探索—

吉田 康太 (産業能率大学)

【3】14:20~14:45

コミュニティ・エンパワメントの体系化に向けた介入手法と評価方法の整理

荻野 亮吾 (佐賀大学)

【4】14:45~15:10

ソーシャルワーカーの「自己覚知」を「学習社会学」から考察する意義

—ソーシャルワーカーによるスーパービジョンの観点から—

大津 雅之 (山梨県立大学)

【5】15:10~16:00

多文化共生ファシリテーターの育成に向けた基礎研究 その3

○良知 恵美子(常葉大学) ○増井 実子(常葉大学)

○谷 誠司(常葉大学) ○白鳥 絢也(常葉大学)

○江口 佳子(常葉大学) ○那珂 元(常葉大学)

16:00~16:30 共同討議

課題研究 1（研究推進委員会企画）

子どもの多様な学びを支える新たなアプローチ —個別最適な学びと協働的な学びの可能性—

S103 会場 9月3日（土）16:30～18:30

研究推進委員長 志々田 まなみ（国立教育政策研究所）

〈趣旨〉

これまで子どもの学びは、学校という場や、教員という担い手、教科といった枠などに限定されて捉えられがちであった。しかし、これからの社会では高度化・複雑化する諸課題に他者と協働しながら対応できる資質能力が求められており、それを培うための社会の教育資源・人材を活かした多様な学びの在り方や、多様な機会提供の方策が問われている。また、さまざまな状況から学校での学びに困難さを感じる子どもの存在と、一人ひとりのニーズに向き合う多様な支援の必要性にも注目が集まっている。全ての子どもが自らの興味や関心、特性に基づきながら主体的に学ぶことを可能にする支援策や、それら多様な学びの機会を社会全体で持続的に支える方策が求められている。

そこで、本課題研究では、従来の学校教育の枠を越え、子どもの多様な学びを支える新たな動向について着目し、そこでの学びの可能性について、実践事例を踏まえながら検討を行う。その際、中央教育審議会答申第 228 号「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」（2021 年 1 月）において「2020 年代を通じて実現すべき」学びとして示されている「個別最適な学び」と「協働的な学び」にも注目しながら、これからの多様な学びについて考察を深める。

〈登壇者〉

* 発表者

①地域と学校との協働による地域人材育成の実態とその課題

益川 浩一 会員（岐阜大学）

②多様な学びのニーズに応えるフリースクールの実態とその課題

武井 哲郎 会員（立命館大学）

③公設による学習塾（公営塾）の実態とその課題

佐久間 邦友 会員（日本大学）

④学校部活動の地域移行にむけた改革の動きとその課題

揚石 明男 氏（公益財団法人音楽文化創造事務局長）

* コーディネーター 志々田まなみ 会員（国立教育政策研究所）

課題研究 2 (国際交流委員会企画)

若者から始まる民主主義

—政治参加を促進する仕組みの比較研究—

S103 会場 9月4日(日) 10:00~12:00

国際交流委員長 赤尾 勝己 (関西大学)

〈趣旨〉

日本では 2015 年に公職選挙法が改正されて、2016 年に「18 歳選挙権」が導入された。それに続いて民法が改正され、2022 年 4 月 1 日から成年年齢が 20 歳から 18 歳に引き下げられることになった。「18 歳選挙権」は、民主的な社会を創っていくうえで重要な契機となると期待されている。しかしながら、若者の政治参加は喫緊の課題であるものの、これまでのところ日本の若者の政治参加の意識は低調な状況にあることが報じられている。

そこで、本学会国際交流委員会では、企画課題研究において、若者の政治参加を促進していく仕組みについて、スウェーデン、日本、イギリスの 3 カ国での比較研究を企画することになった。

司会は、本学会の大野順子会員と古田雄一会員が担当する。報告者としては、『若者からはじまる民主主義—スウェーデンの若者政策—』(萌文社)の著者でもある両角達平氏、日本の状況について青少年教育の歴史研究に詳しい安藤耕己会員、イギリスの状況について研究業績を蓄積されてきた田中治彦氏にお願いすることにした。これから日本社会において、若者の政治参加を促進していくうえで、その仕組みをどのようにつくっていけばよいのか、それを通して市民性の育成はどのように変容していこうとしているのかについて、ともに考えていく場としたい。

〈登壇者〉

司会：大野 順子 会員 (摂南大学) 古田 雄一 会員 (筑波大学)

報告者

- ① 両角 達平 氏 (日本福祉大学)・・・スウェーデンの状況について
- ② 安藤 耕己 会員 (山形大学)・・・日本の状況について
- ③ 田中 治彦 氏 (上智大学名誉教授)・・・イギリスの状況について

開催校企画シンポジウム

コミュニティ・スクールから子どもの未来を拓く

～地域と学校の協働のこれから～

S410 会場 9月4日（日）13:00～16:00

大会実行委員長 柴田 彩千子（東京学芸大学）

〈趣旨〉

開催校企画シンポジウムは、本学の所在する東京都小金井市教育委員会との共催事業として実施する。本シンポジウムの前半では、文部科学省総合教育政策局地域学習推進課の榎木奨悟氏が、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の全国的な動向や、両者の一体的な推進施策について、基調講演を行う。後半では、コミュニティ・スクールの設置を段階的に進めている小金井市を事例に、これからのコミュニティ・スクールの目指す方向性について、小金井市教育長の大熊雅士氏、小金井市立緑小学校コーディネーターの八木尚子氏、地域と学校の協働の在り方をめぐって、文部科学省CSマイスターの四柳千夏子氏、前出の榎木氏と共に検討していく。

本シンポジウムでは、地域と学校が協働することによって、子どもがどのように育つのか、あるいは大人がどのように学んでいくのかについて自由闊達な討議を行い、これからの地域と学校の協働の在り方を、学習社会という側面から参加者の皆様とともに熟考する場としたい。

〈登壇者〉

基調講演

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進について」

榎木 奨悟 氏（文部科学省地域学習推進課）

シンポジスト(五十音順)

榎木 奨悟 氏（文部科学省地域学習推進課）

大熊 雅士 氏（小金井市教育長）

八木 尚子 氏（小金井市地域学校協働活動推進員）

四柳 千夏子 氏（文部科学省CSマイスター）

* コーディネーター 柴田 彩千子 会員（東京学芸大学）

日本学習社会学会
第 19 回大会 プログラム

2022 年 8 月 10 日発行

日本学習社会学会第 19 回大会実行委員会

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1

東京学芸大学教育学部

TEL:042-403-9499(研究室)

柴田 彩千子

個別最適な学び
の足場を組む。

奈須正裕

みんなを
一緒に、
手放す

誰一人の育ちも取り残さない教育は「同調圧力」が強い日本の学校で実現可能か？
突如現れた「ように見える」「個別最適な学び」で、教室の景色はどう変わるのか？

曖昧で複雑な未来を照らす光は、いつだって過去の記憶(歴史、実践)だ。
それらに学び目の前の子どもたちと一歩を踏みだせば、必ずや道は開ける！

個別最適な学びの 足場を組む。 みんな一緒に、 を手放す

来たるべき学びの転換点、
それは——みんな一緒に、を手放すことなのかもしれない。
誰一人の育ちも取り残さない「個別最適な学び」をどう実現するか。
豊かな歴史と実践を訪ねるなかで、
先生方の疑問が解け、誰もが理論を持てる。
個別最適な学びの足場づくりに欠かせない1冊！

本書の内容

- 1章 「令和の日本型学校教育」と個別最適な学び
- 2章 近代学校の特質と個別最適な学びの源流
- 3章 学習研究の進展と個別最適な学び
- 4章 指導の個別化と学習の個性化
- 5章 学び方の得意と自己決定的学習
- 6章 環境による教育と学習環境整備
- 7章 未来に向けて

最新刊!

《著》奈須正裕 (上智大学教授)

四六判/270頁/

定価2,200円(本体2,000円+税10%)



ご注文は、小社、書店、ネット書店まで。小社は送料無料で即日発送！(午後3時注文分まで・土日祝日除く)

WEBからのご注文なら早くてカンタン！

■ オンラインショップ：



電話 03-3815-7041

無料FAX 0120-462-488

コミュニティ・スクールの全貌

佐藤晴雄編著

4400円

コミュニティ・スクールの研究

佐藤晴雄編著

4730円

近現代日本教員史研究

船寄俊雄・近現代日本教員史研究会編著

4950円

大学生のための中等社会科・地理歴史科・公民科概論

田部俊充・田尻信章・小松伸之編著

2200円

レリバンスの視点からの歴史教育改革論

二井正浩編著

2750円

中学校学校図書館における生徒の居方に関する検討

新居池津子著

8800円

ジェームズ・カマーの学校開発プログラム研究

藤岡 恭子著

9900円

奇跡の学校—コミュニティ・スクールの可能性—

小西哲也・中村正則編著

1650円

アイヌ民族の言語復興と歴史教育の研究

上野 昌之著

7700円

地方学力テストの歴史—47都道府県の戦後史—

北野 秋男著

2022年12月刊行予定 予価7700円

日米のテスト戦略—ハイスティクス・テスト導入の経緯と実感—

北野 秋男著

2200円

子どもの権利をまもるスクールロイヤー

松原信継・間宮静香・伊藤健治編著

2750円

評伝 成瀬仁蔵—女子高等教育から「社会改良」へ—

片桐芳雄著 (発行:日本女子大学 発売:風間書房)

4950円

ゲーム感覚で身につく論文執筆

飯村周平・松井智子・宅香菜子著

2200円

世界史教育内容編成論研究

祐岡 武志著

7150円

教科学習支援における母語支援者の当事者性獲得

宇津木奈美子著

7700円

社会教育主事に求められる役割

桜庭 望著

7150円

生涯学習関連施設の学習プログラム開発過程に関する研究

金藤ふゆ子著

12650円

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34
TEL 03-3291-5729 FAX 03-3291-5757

風間書房

(URL) <https://www.kazamashobo.co.jp>
メールアドレス pub@kazamashobo.co.jp (価格税込)

学校管理職・教育委員会のための

いじめを
重大化させない

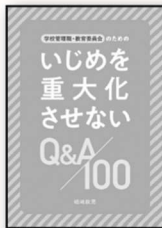
Q&A 100

[著者] 嶋崎 政男

いじめが起こってからでは遅い!
学校のいじめ対応 必携の書

目次

- 第1章 いじめの定義・認定
- 第2章 いじめの重大事態
- 第3章 第三者委員会の調査
- 第4章 重大事態の調査
- 第5章 調査報告書(答申)の作成
- 第6章 調査にあたっての基礎知識



B5判並製・152ページ
ISBN 978-4-87168-682-2
C3037 ¥2000E
定価2,200円
(本体2,000円+税10%)

コミュニティ・
スクール

増補
改訂版

「地域とともにある
学校づくり」の実現のために
佐藤 晴雄 著

コミュニティ・スクールへの理解や
学校改善に役立つ実用書。
大規模な全国調査のデータに基づき、
コミュニティ・スクールの実態や
成果・課題を明らかにする。

目次

- 第1部 保護者・地域による学校運営参画の
意義と現代的特質
- 第2部 調査から考察するコミュニティ・スクール
の実態
- 第3部 コミュニティ・スクールQ&A
【基礎編】/【委員編】/【運営編】/【準備編】



A5判並製・223ページ
ISBN 978-4-87168-636-5
C3037 ¥1800E
定価1,980円
(本体1800円+税10%)

209号
いま、教職は魅力的か

210号
子どものいじめの今を知る

211号
教育判例にみる子どもの権利

212号
「特集1子どもの人権を守るために—性教育編—」「特集2教員の働き方—長期休暇編—」

特集1
開かれた、参加と共同の学校づくり

特集2
「支え合う社会」の教育

(2023年6月号)

季刊
教育法

● B5判
● 本体1,905円+税
● 3・6・9・12月25日発行

エイデル研究所

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-9 TEL.03-3234-4641 FAX.03-3234-4644

教職概論

教師を目指す人のために
〈第6次改訂版〉

佐藤晴雄「著」定価12,640円(税込) A5判 240頁 2022年8月刊

4年ぶり最新版出来！

- ◎二〇〇一年の初版刊行以来、教職に就こうとする学生や教職導入単位を教える先生からの圧倒的な支持を得て読み継がれている一冊！
- ◎教育改革に伴う法改正や制度改革を盛り込み、資料等を最新データに更新。
- ◎「教育実習総論」のテキストとして、また、採用試験対策の参考書として最適。



現代教育概論

第5次改訂版

佐藤晴雄「著」定価12,640円(税込) A5判 260頁 2021年3月刊

- ◎教育学の基礎理論を踏まえながら、現代の教育改革をめぐる動向や教育課題を考察。
- ◎単なる概論書にとどめず、最新の実践的事項を詳述。
- ◎初学者のテキストに、また、教職採用試験の参考書に最適。



生涯学習概論

第2次改訂版

佐藤晴雄「著」定価12,750円(税込) A5判 240頁 2020年3月刊

- ◎生涯学習および社会教育の歴史にはじまり、今後の問題までを、バランス良く、平易な書き方で概括した基本図書。
- ◎社会教育調査をはじめ必要なデータや資料をきちんと押さえ、わかりやすく解説。



学陽書房

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋1-9-3
TEL: 03-3261-1111 FAX: 03-5211-3300

●HPはこちら

